



メコンの流れ



プノンペン日本人学校



「預かった子供を元気に家庭に返す」

校長 伊藤 潔

学校では、教職員が知恵を絞り、話し合い、より良い教育活動や運営方法を練り上げていきますが、最終的な決裁権と責任は校長にあります。実施か中止か延期か、登校か休校か、何が正解なのか分から



ない中で、判断を迫られることも少なくありません。そんな時私が基準にしているのは、「保護者から預かった大切な子供たちを元気に家庭に返すことができるかどうか」ということです。

中国深センで、登校途中に児童が襲われ命を落とすという大変痛ましい事件が発生しました。元気があったわが子を突然失った親御さんの気持ちを考えると胸が苦しくなります。学校関係者、現地の日本人社会が受けたショックは計り知れません。国、社会状況は異なりますが、本校としてもこれまで以上に、「子供たちの命を守る」視点を常

に意識しながら、教育活動を実施してまいります。先日は小学部1、2年生が、生活科の授業で学校前のロムストリート探検を行いました。警備体制を見直し、担任のほか教員2名、カンボジア人事務員、学校警備員、地区警察署警察官の計7人の大人が見守りを行いながら実施をいたしました。子供たちは商店の人々と片言のクメール語で言葉を交わしながら、新たな体験に目を輝かしていました。

また、今回の事件、6月の中国蘇州での通学バス襲撃事件、いずれも通学途中に発生しています。本校の子供たちは、バス通学の他、様々な方法で通ってきています。少しでも通学途中のリスクを下げるためには、保護者と協力して考えていかなければならない問題です。

10月から後期授業が始まります。これまで以上に子供たちの安全に配慮しながら、体



験を重視した有意義な教育活動を推進してまいりますので、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

※今年度、通知表の見直しも行いました。保護者の皆様との情報共有等につきましては、面談等の機会をとおして、今後も大切にしていきたいと考えておりますのでご理解ください。

オンライン授業についての確認

オンライン授業についてお知らせと確認になります。以下ご確認ください。

1、オンライン授業を行う場合の条件

(1) オンライン授業を認めるケース

- ①足の怪我など体調には問題ないが、学校への登校が難しい場合
- ②体調不良時（起きて無理なくオンライン授業に参加できる程度の体調、無理しての参加はしない。）
- ③日本への一時帰国中

(2) オンライン授業を認めないケース

- ・日本への一時帰国以外の国内外の旅行

2、オンライン授業時の出席の取り扱いについて

- ・日本への移動日→出席停止（欠席とはなりません）
- ・オンラインで授業に1時間以上参加した→出席（オンライン授業日として数える）

3、オンライン授業を実施する教科・方法について

- ①教室内で行われる授業のみが対象です。
- ②視聴可能なのは、国語、数学（算数）、理科、社会、英語のみです。技能教科（体育、音楽、図工、美術、家庭、技術など）については行いません。
- ③視聴できる映像は学習活動のおよその様子がわかるように定点で撮影したものです。

※出席簿上の取り扱いについて（特に進学関係）は添付資料に詳しく掲載してあります。ご覧ください。

通知表についてのお知らせ

通知表改訂についてのお知らせ

この度、通知表の見直しを行い以下の3点について改訂いたしましたので了承ください。

改訂箇所

旧	新
① 学校からの所見欄 学期ごとに記載	① 面談時に保護者へ報告することでこの欄の削除
② 保護者からのコメント欄	② 削除
③ 「道徳」「外国語活動」(G4以下)総合的学習の時間の評価。 学期ごとに記載	③ 後期にまとめて一回のみ記載

以上よろしく申し上げます。

通知表の取り扱いについて

本日担任より児童生徒に渡しました通知表については、後期の始業式の日そのまま児童生徒を通じ担任にお戻しく下さい。

編入学児童生徒の前期評価について

(小学部)

編入学時期、または教科によって、学習時間及び学習内容が異なるため、評価ができるものについては評価を行い、評価ができない教科については斜線としています。

(中学部)

中間テストを受験していないこと、また今回のテスト範囲と前籍校での既習内容との相違もあり、公正な評価が難しいため。前期の評価は行いません。評価個所については斜線となります。

